

祝康成=女

text by Yasunari Iwai

ぬまおやすひろ=イラストレーション

illustration by Yasuhiro Numao

「おんな口説くの苦手なんでね」
とつぶやく、怖い顔の持ち主。
卵シャワーで顔面バックの小学生。
プラスチック製のマスクを被った
女性剣士。氷上の可憐な女子高生。
陸上の英雄は、褐色の大学生……。
今回の、主な登場人物です。



スポーツチャンバラ協会 (☎045-664-7198)

Takao Yamada

史上最強、世界最強の剣術 スポーツチャンバラ体験記

「剣道・フェンシング・サーベル。これらの競技上のルールを全部取り払って戦ったら、最も強い剣術は何か。その疑問が全ての始まりです」と語るのは、国際スポーツチャンバラ協会の田辺哲人会長(50)。チャンバラ、と聞くと何やら軽い冗談めいた響きがあるが、このスポーツチャ

ンバラ(以下スポチャン)は、剣道居合道等すべての段位をあわせて三十数段という極めつきの武道家である田辺氏が、試行錯誤のうえ昭和48年に創始した「史上最強の剣術」なのである。

「スポチャンは誰でもその日から存分に戦える剣術」(田辺氏)

という言葉に誘われ、ものは試しと一日入門をお願いした。

横浜の本部道場では、男女約20名が練習の真つ最中。バン、バンと剣が激しく当たる音が痛そうだが、硬化ゴムを布で包んだ。ソフト剣は身体に当たると大きくしなるため、痛みは殆ど感じないという。

プラスチック製のマスクを被っていざ出陣。ソフト剣は非常に軽く、これなら女性子供でも自由に振り廻せる。当方、剣道の心得があるのでなんとかやれる、と思っていた。しかし、始まるなり踏み出した足を払われて、一本。田辺氏曰く「実際の戦場なら、どこを斬られても致命傷のはず。これは戦と同じなのです」

ちなみにスポチャンは構えも打ち方も全く自由。へっぴり腰だろうと剣をメチャクチャ突き出そうと、先に相手の身体へ当てた方が勝ち。

「剣道やフェンシングの達人が、初心者に負けることもある。それがスポチャンです」(同)

腰を、肩を、足をメタメタに打たれ、最後は女性の槍の遣い手に胸をひと突きされてジ・エンド。チャンバラに剣道は全く役に立たない、と思いついた夜だった。

12月23日、第19回世界スポーツチャンバラ選手権大会が神奈川県立武道館にて開催される。世界15カ国から1000名近い選手が集まり「世界最強の剣士」を決める。

193-11

Number 327